

令和2年度 秋季埼玉県高等学校野球大会 新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン

(一財)埼玉県高等学校野球連盟

以下は、(公財)日本高等学校野球連盟が示した新型コロナウイルス感染防止対策にかかる大会運営の基本的な考え方に基づき、(一財)埼玉県高等学校野球連盟が策定したものである。

＜都道府県大会の開催について＞ [日本高等学校野球連盟]
秋季大会については、感染状況の地域差や各教育委員会等の意向などを踏まえ大会の運営方法については各都道府県ごとに決定する。

※ 入場を認める関係者については、別途、埼玉県高等学校野球連盟において決定する。

【基本原則】

- 1 いわゆる3つの密（密閉・密集・密接）を徹底的に回避する。
- 2 移動前の検温徹底とバスなどによる移動時の濃厚接触を回避する。
- 3 試合と直接関係ない人の来場を避ける。
- 4 参加者から新型コロナウイルス感染症に関する報告があった場合や感染拡大の可能性が報告された場合の対応方針について当該衛生部局・保健所等関係機関と予め検討しておく。

【関係者のカテゴリー】

- 1 大会運営関係者（連盟役員、審判委員、補助員、警備員等）
- 2 学校関係者（校長、責任教師、監督、顧問、選手、控え部員、記録員）
- 3 メディア関係者（報道）
- 4 その他

【共通】

- 1 試合に関わる全ての関係者は、試合が開始される2週間前からの行動歴（いつ、どこで、誰に会った、など）を記録しておくこと。
- 2 次の(1)または(2)に該当する者は、球場への入場を制限する。
 - (1) 下記①～④を含む体調不良の者
 - ① 体温37.5℃以上
 - ② 強い倦怠感
 - ③ 咳、咽頭痛、息苦しさ等
 - ④ 味覚・嗅覚異常などの異変がある
 - (2) PCR検査陽性歴があり、下記①～④のいずれかに該当する者
 - ① 有症状者では、発症日から10日未満、かつ症状軽快後72時間以内
 - ② 症状軽快後24時間経過から24時間以上の間隔を空け2回のPCR検査で陰性を確認できていない
 - ③ 無症状病原体保有者では、陰性確認から10日未満
 - ④ 検体採取日から6日間経過後、24時間以上の間隔を空け2回のPCR検査陰性を確認できていない
 - i) 濃厚接触者として自宅待機中
 - ii) 家族が濃厚接触者として自宅療養中
 - iii) 家族に上記(1)①～④いずれかの体調不良がある
 - iv) 海外から帰国(日本に入国)して14日以内
 - v) マスク非着用
 - vi) 入場時に氏名、連絡先記入に不同意

【大会運営関係者(埼玉県高野連)の対策＝事前＝】

- 1 すべての試合は、原則無観客試合とする。
- 2 スタンドへの入場は、使用する球場の利用条件の範囲内において、【関係者のカテゴリー】1, 2, 3の関係者に限り、これを認める。
- 3 メディア関係者のうち、ペン関係の報道関係者については、日本新聞協会加盟の新聞社および日本雑誌協会に加盟する社に所属する記者に限り、球場施設内への入場及び取材を認める。また、今大会に限り、インターネット報道協会に加盟している社の記者1名についても、球場施設内への入場及び取材を認める。ただし、動画の配信は一

切これを認めない。静止画の配信のみを認める。なお、取材場所については、各球場の大会運営役員の指示に従うこと。

- 4 抽選会の出席は加盟校の顧問1名のみとし、いわゆる3つの密に十分配慮して実施する。

【大会運営関係者(埼玉県高野連)の対策＝試合会場＝】

感染防止のため主催者が実施すべき事項や遵守すべき事項をチェックリスト化したものを会場の受付場所等の適切な場所に掲示する。

「手洗いの励行」、「咳エチケット」、「マスク持参と必要時（受付時や更衣等の運動を行っていないときや会話をする際など）の着用」、「室内の換気」を徹底する。

<検温>

大会運営関係者、メディア関係者など試合会場に入場する全ての人は、入場の際、必ず検温を実施、記録し、37.5℃以上の場合に入場できないこととする。また、発熱がなくても息苦しさ（呼吸困難）や強いだるさ（倦怠感）等がある場合も同様とする。

<対策>

- 1 消毒液を球場入口、1，3塁ダッグアウト等必要と思われる場所に設置し、定期的に補充する。
- 2 大会役員、補助員など大会運営スタッフはマスク着用とする。
- 3 入場管理を徹底できるよう、出入口を限定し、それ以外の出入口は封鎖する。
- 4 ダッグアウト内が密集になる可能性があるため、横並びに座る、なるべく人と人との距離をとるなどの対策をできる限り講じる。ダッグアウト内でマスクを着用することは差し支えない。
- 5 控え部員の観戦は、スタンドで行い、一人一人の間隔を2m以上とって観戦するように指導する。また、拍手での応援を基本とする。
- 6 本部室、放送室、記録室が密室、密集にならないように工夫し、できない場合はアナウンス、BS0はなしで試合を進める。マイクを使用する場合、マイクカバー使用や消毒を行うなどして、飛沫感染防止につとめる。
- 7 同じ球場で複数試合を行う場合は、試合ごとにダッグアウト内を清掃、消毒を行う。その際、責任教師に対し、その作業に係る指示を行う。
消毒箇所は、ベンチ、手すりなど不特定多数の者が接触する場所とする。このため、次の試合のチームは、球場本部の指示により、球場に入場することとする。
- 8 球場内諸室のドアノブ、トイレドアノブなど不特定多数の者が接触する場所は定期的な消毒につとめる。
- 9 チームが球場から退場した後は、基本原則1に従い、その場に滞留することなく、速やかに解散するよう指導する。

【大会運営関係者(埼玉県高野連)の対策＝試合＝】

- 1 オーダー交換の際は、マスクを着用し、握手は行わないこととする。伝達事項は、事前に文書等にまとめておき、口頭での説明は最小限にとどめる。
- 2 球場本部の指示により、出場チームを球場に入場させる。
- 3 試合前後の挨拶（整列）は、黙礼とする。

【学校関係者の対策】

- 1 指導者、選手、記録員、補助員、控え部員は試合当日起床後、自身で検温し、チーム集合時に別紙検温確認表を作成し、同表を試合会場到着時に球場本部に必ず提出する。
- 2 検温の結果、37.5℃以上の者は、大会会場への来場は自粛する。体調が良くない場合も同様とする（発熱・咳・咽頭痛などの症状がある場合）。
- 3 球場への移動の際はマスクを着用する。試合会場には消毒液を設置しているので、こまめに活用し、感染予防につとめる。
- 4 必要に応じ、控え部員が距離を置いて並ぶことができるような目印の設置等を行うこと。
- 5 熱中症予防にも十分に配慮することとし、水分補給等を行うが、各人のペットボトルや使い捨て紙コップなどを用意し、飲み回し等を行わないようにする。
また、マスクを常時着用すると体力消耗にもつながるので着用する場所としない場所のメリハリをつける。
- 6 飲食については、周囲の人とは対面を避け、会話は控えめにする。
- 7 球場には、球場本部の指示により入場する。
- 8 試合前の練習等でも3つの密を避けるように、十分な間隔をとる工夫をすること。
- 9 円陣を組むなどは密集にならないように配慮し、試合中マウンド上で集合する際は、

- グラブを口にあてることとする。
- 10 試合に出場していない指導者、選手、記録員などのマスク着用については、制限しない。
 - 11 素手でのハイタッチ・握手を控え、ボールも含めた共用の用具を触った手で目・鼻・口を触らない。
 - 12 感染症予防に係る消毒作業等については、以下の通りとする。作業に使用する消毒液、タオル、雑巾等については、各チームで予め準備する。
ダッグアウト：大会運営役員指示の下、チームで清掃、消毒作業を行う。
スタンド：大会運営役員指示の下、責任教師は控え部員に対し、清掃、消毒作業を指導する。控え部員は使用した区域の清掃、消毒作業を行う。ゴミは捨てずに持ち帰る。
 - 13 球場から退場した後は、基本原則1 に従い、その場に滞留することなく、速やかに解散する。

【メディア関係者への対応】

- 1 来場したメディア関係者は球場入口で必ず検温し、37.5℃以上の場合、入場を断る。
- 2 受付で記者証（腕章可）による所属確認の後、名刺を提出し、高野連用意の報道用リボン（以下、リボン）を受け取り、入場すること。
※取材を認めるペン関係の記者は【大会運営関係者（埼玉県高野連）の対策＝事前＝】3に限る。
- 3 球場内では、リボンと腕章を常に見えるところに携帯すること。
- 4 記者室はいわゆる3つの密の状況にならないよう工夫し、回避できない場合はスタンド等で取材を行う。
- 5 球場施設内では大会運営役員の指示に従って取材を行う。
- 6 試合終了後の取材はスタンドを基本とし、チーム関係者とメディア関係者は2m以上離れることとする。
- 7 時間を限定し、最小限で取材を終えることとする。
- 8 球場から退場する際は、リボンを返却すること。来場記録のため名刺は返却せず、大会本部で保管する。

【大会前に関係者から感染者等が発生したときの対応】

- | | |
|---------|---|
| 大会関係者 | ：接触歴を確認し、濃厚接触者は判明日から2週間、自宅待機とし、別の球場役員が運営にあたる。 |
| チーム関係者 | ：感染者以外の指導者、部員は基本的に濃厚接触者となるため、参加校は試合への参加を自粛（辞退）する。これにより不戦敗となる。 |
| メディア関係者 | ：接触歴を確認し、濃厚接触者になる場合は会場への来場を許可しない。 |
| その他 | ：接触歴を確認し、濃厚接触者になる場合は会場への来場を許可しない。 |

2 濃厚接触者となった場合の対応

- | | |
|---------|---|
| 大会関係者 | ：当該者は2週間の自宅待機とする。2週間経過後、高熱などの症状が出なかった場合は復帰可とする。 |
| チーム関係者 | ：チーム関係者以外の者が感染者となり、自身がその濃厚接触者である場合は、当該者は自宅待機とし、その者以外の指導者、部員で試合に参加することは可とする。 |
| メディア関係者 | ：会場への来場を許可しない。 |
| その他 | ：会場への来場を許可しない。 |

- ※ 罹患者が発生した場合、本人が発症2日前から現時点までの行動歴を明らかにすることが重要である。大会役員、審判委員、記録員、参加校関係者など試合に関わるすべての者は、試合が開始される2週間前からの行動歴（いつ、どこで、誰に会った、など）を記録しておくこと。

【大会中に関係者から感染者等が発生したときの対応】

関係機関と連携し、協議の上、対応する。その際、状況によっては大会を中止することもある。

【大会後に関係者から感染者等が発生したときの対応】

- 1 大会終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、速やかにその

旨と濃厚接触者の有無を報告すること。

報告先は以下の通りとする。

I 大会運営関係者，メディア関係者，その他の関係者： 埼玉県高野連

なお，報告を受けた埼玉県高野連は埼玉県教育委員会とその報告に関する共有を行うこと。

II チーム関係者： 当該者の所属する学校の責任教師

なお，報告を受けた当該校責任教師は，所属校並びに埼玉県高野連へ報告すること。

また，報告を受けた所属校は埼玉県教育委員会へ報告すること。

- 2 感染者が発生した場合，各校責任教師は，感染者を特定しようとすることやSNSで誤った情報を発信することのないように生徒に適切に指導すること。

【学校内で感染者等が発生したときの対応】

学校内で感染者が発生し，その教育活動に影響を及ぼす場合は，当該校の大会への出場の可否は当該校校長の判断による。

【大会中止の要件】

- 1 緊急事態宣言が再発令された場合
- 2 県教育委員会等により全県に休校措置が講じられた場合
- 3 球場の使用制限等，関係諸機関の指示により試合実施が不可能となった場合
- 4 大会運営上に支障を来す事態が生じた場合